

ホタテガイ採苗速報

ヒトデの大量付着が確認されています 水温は平年よりも高い状況です

採苗器へのヒトデの大量付着が多く、多くの地区で確認されています(図1)。7月6～8日の付着稚貝調査では、付着数は全湾平均で37個/袋、最大付着数は小湊で125個/袋でした(採苗速報第12号参照)。

平舘・青森・東湾ブイの表層および15m層の水温は、平年よりもやや高い～かなり高い状況で推移しています(海ナビ@あおもり参照)。

以下に注意して、稚貝採取を早めに行い、早めに完了しましょう。

(1) 採取時にはヒトデを除去しましょう。

○ヒトデは1日あたり1～16個のホタテガイ稚貝を捕食します。

○ヒトデの大きさによって異なりますが、ウミセミと違って小さい貝ほど捕食されやすく、大きい稚貝も捕食されます(図2)。

○ワッカ(ちょうちん)のみの選別では、ヒトデが残るので、フルイを使って取り除きましょう。

○ヒトデが多い時は、ムラサキガイ除去用のスリット型のフルイを使うと大きいヒトデを取り除けます。

○稚貝を流さないように注意しながら、大きな深イタライで水流によりワレカラなど一緒にヒトデを除去しましょう。

○残ったヒトデは、手やピンセットなどで除去しましょう。

(2) 採取は早めに、作業は手早く行いましょう。

○稚貝は23℃を超えると成長は鈍り、25℃で成長がストップし、26℃を超えるとエネルギー不足からへい死の危険性が高まります。

○水温の上昇に伴い、ムラサキガイが成長し作業の効率が悪くなります。今年は、ムラサキガイの付着数がかなり多い状況です(採苗速報第12号等参照)。

○ムラサキガイは足糸1本当当たりの接着に約1分を要するので、稚貝を水槽やタライに大量に溜めずに、速やかに選別しましょう。

○フルイから落下した稚貝を新たな採苗器に一掴みずつ再収容したり、流れが速くない時であれば、使うパールネットの目合よりも小さい細目のフルイやワッカで選別してパールネットに入れたして、小さい稚貝を有効活用しましょう。



図1 小湊の採苗器に付着していたヒトデ

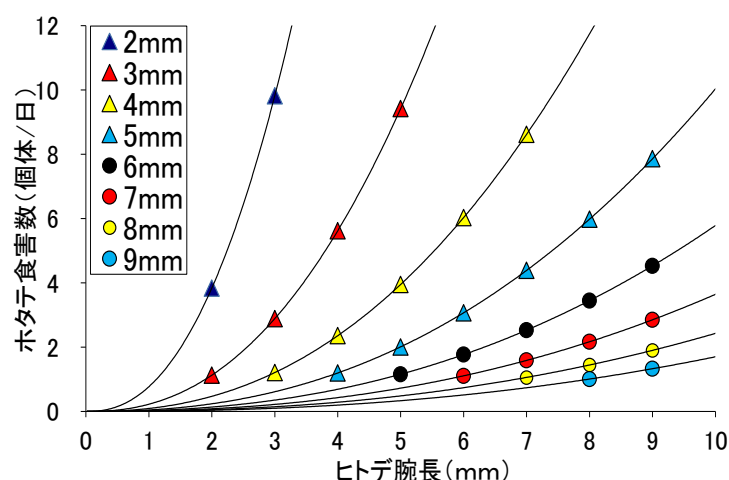


図2 ヒトデとホタテガイ稚貝のサイズ別のヒトデ1個、1日当たりの食害数

